

衆院選

“自民党王国福井”
自民3候補盤石か！
立民が脅かすか！



1区 稲田対野田 2区 高木対斉木

10月には衆議院議員が4年間の任期満了を迎え、菅義偉首相の自民党総裁としての任期も9月に満了となる。

自民党内では東京バラリンピック閉幕直後の解散、10月投票とのシナリオが有力視されている一方、衆院を解散せず、議員の任期満了選挙とするのも選択肢との声が出ている。解散に踏み切った場合、新型コロナウイルス対策の観点から菅首相の判断の妥当性が問われかねないが、任期満了選挙であれば逆に感染対策を最後までやり切ったとアピールできるとの理屈だ。実際に行われれば戦後2例目という珍しいケースとなる。

東京オリパラありきのコロナ対策に支持率を下げる菅首相だが、自民党王国福井には影響が薄そうだ。

前回は2選挙区とも自民が議席を獲得し、今回も独占を狙う。1区は前回大勝し6選を目指す稲田朋美(自民)に対し、野党側は野田富久(立民)、金元幸枝(共産)の両新人が立候補を表明した。

2区は、高木毅(自民)と前回比例復活の斉木武志(立民)の両現職が2度目の対戦となる。

連合福井は3月に、福井1区は立憲民主党新人で元県議の野田富久氏、同2区は立民現職で党国会対策副委員長の斉木武志氏2期を推薦すると決定。横山龍寛会長は、次期衆院選は今の生活を大きく転換できるチャンスだとし「新立憲民主党をしっかりと応援する。福井でも二大政党制を目指すための足掛かりとして選挙に臨みたい」とあいさつ。野田氏は「1区で皆さんの力を頂きながら自民党を倒す気概で取り組みたい」、斉木氏は小選挙区での勝利を念頭に「二大政党制の確立に向け、